

製品名: SFRP1 (1U15) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17792**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,FC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	35kDa

抗原情報

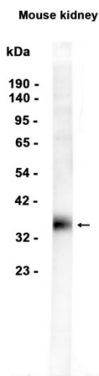
遺伝子名	SFRP1 Frizzled related protein 1; FRP1; FrzA; SARP2; Secreted apoptosis related protein 2; Secreted
別名	frizzled related protein 1; SFRP1;
遺伝子 ID	6422.0
SwissProt ID	Q8N474
免疫原	ヒト SFRP1 の組み換えタンパク質

背景

SFRP タンパク質は腫瘍抑制因子として作用すると考えられており、その発現または機能の喪失は多くの浸潤性癌と関連しています。対応する SFRP1 遺伝子の欠失とプロモーターの過剰メチル化による遺伝子サイレンシングが、多くの癌で報告されています。SFRP1 およびその他の Wnt シグナル伝達タンパク質の異常発現は、網膜色素変性症の一部の症例と関連しています。可溶性フリズド関連タンパク質 (sFRPS) は、Wnt と直接相互作用することにより、Wnt シグナル伝達の調節因子として機能します。これらは、特定の細胞型における細胞増殖および分化を制御する役割を果たしています。SFRP1 は細胞内 β -カテニン濃度を低下させます (類似性による)。in vitro および in vivo で血管細胞に対して抗増殖作用があり、in vivo では血管新生反応を誘導できます。血管細胞周期において、G1 期を遅延させ、S 期への移行を遅らせます (類似性による)。腎臓の発達において、後腎における尿細管形成および芽の成長を阻害します (類似性による)。WNT1/WNT4 を介した TCF 依存性転写を阻害します。

研究分野

画像データ



SFRP1 (1U15) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス腎臓組織抽出物のウエスタンブロット分析を行いました。